16十訓抄

　すべて、は短小の虫なれども、の心ありといヘり。されば、は、蜂をいくらともなく飼ひひて、「なに丸」「か丸」と名を付けて、呼び給ひければ、召しにしたがひてなどをＡ勘当し給ひけるには、「なに丸、刺して。」と①のたまひければ、そのままにぞ振る舞ひける。出仕の時はのうらうへのに、はらめきけるを、「とまれ。」とのたまひければ、とまりけり。世にはのとぞ申しける。不思議の徳、おはしける人なり。漢のがをしたがへたりけるに、ことならず。この殿の蜂を飼ひ給ふを、、「［　Ⅰ　］のこと。」といひけるほどに、五月のころ、にて、蜂の巣にはかに落ちて、に飛び散りたりければ、人々、②刺されじとて、逃げさわぎけるに、、御前にありけるを一房取りてにて皮をむきて、さし上げられたりければ、あるかぎりＢ取りつきて、散らざりければ、を召して、やをらたびたりければ、院は「かしこくぞ、宗輔が候ひて。」とＣ仰せられて、③ありけり。　 （巻一ノ六）

そばにいて

という話と同じである

お渡しになったところ

折よく

宗輔は

世間の人は

だいたい

語注

＊恪勤者…雑役に従事する侍。

＊車のうらうへの物見…牛車の両側の物見窓。

＊琴爪…琴を弾くとき、指にはめる道具。

問１　＝　線部Ａ～Ｃの主語として最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　宗輔　　イ　恪勤者　　ウ　院　　エ　蜂

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）

問２　―線部①、②を現代語訳せよ。

①＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　〕

②＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　〕

問３　［　］Ⅰに入ることばとして最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　無常　　イ　　　ウ　無難　　エ

問４　―線部③の意味として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　お褒めになった

イ　お悲しみになった

ウ　お喜びになった

エ　お怒りになった

【解答】

問１　Ａ＝ア　Ｂ＝エ　Ｃ＝ウ

問２　①＝おっしゃったところ

　　　②＝刺されまい（刺されたくない）

問３　イ

問４　ア

現代語訳　だいたい、蜂は短小の虫であるけれども、仁智の心を持っているといわれている。それゆえ、京極太政大臣宗輔公は、蜂をたくさんお飼いになって、「なに丸」「あれ丸」と名付けて、（それらを）お呼びになると、お召しに従って（やってくるのだった）、雑役に従事する侍たちをおしかりになるときなど、「なに丸、だれそれを刺して来い。」とおっしゃったところ、そのとおりに動いたという。勤めに出る時は牛車の両側の物見窓に、ブンブンと音を立て（飛びまわってい）るのを、「とまれ。」とおっしゃったところ、（蜂たちは）とまったという。世間では（宗輔公のことを）蜂飼の大臣とお呼びしていた。不思議な徳が、おありになった方である。漢の蕭芝という人が雉を従えていた、という話と同じである。この殿が蜂を飼っていらっしゃるのを、世間の人は、「【役に立たない】こと。」と言っていたが、五月の頃、鳥羽殿で、蜂の巣が突然落ちて、御前に（蜂が）飛び散ってしまったので、人々は、刺されまいとして、逃げ騒いでいるときに、宗輔は、御前にあった枇杷を一房取って、琴爪で皮をむき、上にさし上げなさったところ、全部（の蜂）が（枇杷に）取りついて、散らばらなくなったので、供人をお召しになって、そっとお渡しになったところ、院は「折よく、宗輔がそばにいて。」とおっしゃって、お褒めになったということである。

ポイント

問２　①「のたまひ（おっしゃる）」＋「けれ（過去の助動詞）」＋「ば（接続助詞）」

　　②「刺さ」＋「れ（受身の助動詞）」＋「じ（打消意志の助動詞）」